

Hayakawa Hiroshi

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「介護人材創造塾」(岡井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)、「介護事業の羅針盤」(シルバートレーディング)など。
http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

介護マネジメント塾
経営(継承)のツボ

りゅうかんごどう
流汗悟道

転期に立つ経営者の資質の考え方④

早川浩士

(有)ハヤカワプランニング代表取締役



「難有」は「有り難い」の音

北海道家庭学校*のある北海道紋別郡遠軽町留岡は、創設者・留岡幸助の名残を持つ地名となっている。

京都神学校(現・同志社大学)を卒業した留岡は、北海道空知監獄の教誨師の職に赴く。

獄舎の囚人と接するうち、犯罪者の多くが少年期に罪を起していることを知る。数年後、アメリカの感化監獄へ3年間 にわたって留学。

帰国後、犯罪抑制のためには少年教育の必要があるとして、自然のなかで農作業等の労働体験を通じて感化事業を行うという構想を実現するため、旧内務省から一町歩(約一ヘクタール)もの広大な国有地の払い下げを受けて、1914(大正3)年に教護院(現・児童自立支援施設)を設立。それが、母校である。「人が人に与える影響以上に、自然が人に与える影響は大きい」との留岡の理念を伝えるため、「難有」と書かれた文字が講堂に掲げられている。

「難」には、困難や難問などの難しいこと、災難や盗難などのわざわざいも有るから、「難」が有ると読むのだろうか。いや、違う。「有り難い」のである。難しいことやわざわざいに出会うのは、

人として「有り難い」ことなのだ。

親(人や社会)に頼っているうちは、子ども(住民)の不平等・不満は募るもの。子どもの頃は、思いどおりにならないことを親に八つ当たりすれば良かった。

頼ってばかりの子どもは、子どもから頼られるようになった親の時とは、ものの見方や考え方も変わる。

そんな当たり前とも思える家庭(地域社会)の出来事に昨今、疑問を投げかけなくなるような痛ましい事件が相次ぐ。

「汗馬の勞あり、悍馬の苦勞あり」

昨年末に示された介護報酬改定から、転、厚生労働省は5月28日の全国介護保険担当課長会議の場において、介護職員への賃金改善のために介護報酬とは別に交付される「介護職員処遇改善交付金」(仮称)を受けの際に事業者が提出する処遇改善計画書の案を示した。

介護職員(常勤換算)1人当たり月額1万5000円の賃金引き上げをめざす「介護職員処遇改善交付金」の助成を受けながら、事業者は都道府県に処遇改善計画書を提出する必要がある。

事業者は計画書を職員が閲覧できる場所に掲示するなど、全職員に周知したうえで提出しなければならない。計画書には、「交付金の1カ月当たりの

交付見込み額」「介護職員1人当たりの賃金改善見込み額(月額)」「賃金改善の方法」「前年度の介護職員の常勤換算数(総数)」「前年度の賃金の総額」の各項目がある。

介護給付費を国に頼らざるを得ない事業者にとって、喉から手が出るほど「有り難い」ことだが、3年間の期限付き。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とさせないことである。

留岡の考え方を表した言葉に「流汗悟道」がある。

汗を流して働けば、親の苦勞や他人の苦勞がわかる」という意味がある。「汗水流して一生懸命の」ことをやれば、おのずと道はひらける」との説明を加えた学校の校訓もある。

介護現場で働く職員にとって、「汗」を避けるような業務は考えにくい。

恥ずかしさや恐ろしさのため、ひどく汗をかくことを「冷汗三斗」という。また、「汗馬の勞あり、悍馬の苦勞あり」という言葉もある。

ひたすら無心に汗をかく馬は勞われ、汗を嫌がる馬は苦勞が絶えない。草むしりを率先する人から「流汗悟道」の心を学ぶ研修を提案したい。

晩年、至誠と実践を重んじた留岡は、二宮尊徳を尊崇していたという。

* 現在、留岡幸助を題材にした『大地の詩』の映画製作の準備が進められている。